

医 健 第 2882 号  
令和 8 年 2 月 12 日

市内医療機関の皆様へ

横浜市保健所長  
木村 博和

インフルエンザの市内再流行に伴う注意喚起について（依頼）

日頃から本市の感染症対策に御理解、御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

本市では、第 6 週（2 月 2 日～2 月 8 日）の定点医療機関当たりの患者報告数が 53.30 となり、11 月中旬の第 47 週「60.78」のピークに迫る勢いで年明けから急増しています。

型別では、B 型が 96.9%を占めており、年齢別では、15 歳未満の報告が全体の 81.5%となっています。

感染が広がる前に、施設への持ち込み防止策、発症者の早期把握及び感染拡大防止策の強化が重要です。

御多忙中のところ誠に恐縮ですが、各医療機関において感染対策をお願いいたします。

※令和 7 年 4 月 7 日から定点医療機関数に変更があったため、変更前に使用していた基準を参考としています。

<添付資料>

- （1）記者発表資料「インフルエンザ再流行中」
- （2）2025-2026 横浜市インフルエンザ流行情報（令和 8 年 2 月発行）

担 当：横浜市医療局健康安全課  
電 話：671-2463 FAX：664-7296  
E-mail：ir-kenkoukiki@city.yokohama.lg.jp

## インフルエンザ再流行中

横浜市ではインフルエンザの患者報告数が、11月下旬から減少傾向にありましたが、令和8年第6週（2月2日～2月8日）の全市集計において、定点医療機関<sup>※1</sup>当たりの患者報告数が「53.30」となり、今シーズン最高値（第47週「60.78」）に迫る勢いで急増しています。

型別では、昨年流行したA型に代わりB型が96.90%を占めており、年齢別では、10歳未満の報告が全体の48.10%、15歳未満の報告が全体の81.50%となっています。

家族や周りの方へうつさないように、早めの予防策を取ることが大切です。

※1 定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告する医療機関（市内90か所）

### 市内定点医療機関当たりの患者報告数

年・週	期 間	患者報告数（人）（※2）	備考
令和8年第3週	1月12日～1月18日	8.39	—
第4週	1月19日～1月25日	17.67	注意報
第5週	1月26日～2月1日	33.87	警報
第6週	2月2日～2月8日	53.30	警報

※2 患者報告数は医療機関からの追加報告により、数値が変動します。

【参考】横浜市感染症情報センターWeb ページ

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/idsc.html>



### インフルエンザにかからない、うつさないためのポイント



### インフルエンザにかかったかもしれないと思ったときは

- 人混みへの外出を控え、無理をせず十分に休養をとりましょう。
- 高熱が続く、呼吸が苦しい、意識状態がおかしいなど、具合が悪ければ早めに医療機関を受診しましょう。
- 乳幼児や高齢者、妊婦、免疫力の低下、基礎疾患のある方は特に重症化しやすいため、心配な場合は早めに医療機関を受診しましょう。

### インフルエンザの予防接種

重症化予防のため予防接種を受けましょう。

【参考】厚生労働省 Web ページ 「インフルエンザ（総合ページ）」

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/infuenza/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/infuenza/index.html)



### お問合せ先

（感染症対策全般について）医療局健康安全課長	竹澤 智湖	Tel 045-671-2442
（感染症発生動向について）衛生研究所感染症・疫学情報課長	横山 涼子	Tel 045-370-9279

# 横浜市インフルエンザ流行情報

横浜市医療局健康安全課／横浜市衛生研究所

<<トピックス>>

## B型インフルエンザ急増し、学級閉鎖も増加

【第6週(2月2日~2月8日)の概況】

- ✓ 定点あたりの患者報告数<sup>※1</sup>は、横浜市全体で **53.30** となり、今シーズン最高値に近づいています。流行警報発令基準の 30.00 を超えた状態が続いています。
- ✓ **B型**が **96.9%** を占めています。A型にかかった人も、**再感染に注意**が必要です。
- ✓ 年齢別では、**15歳未満**の報告が全体の **81.5%** を占めています。
- ✓ 学級閉鎖等は、小学校を中心に **241施設**、患者数は **4,567人**です。

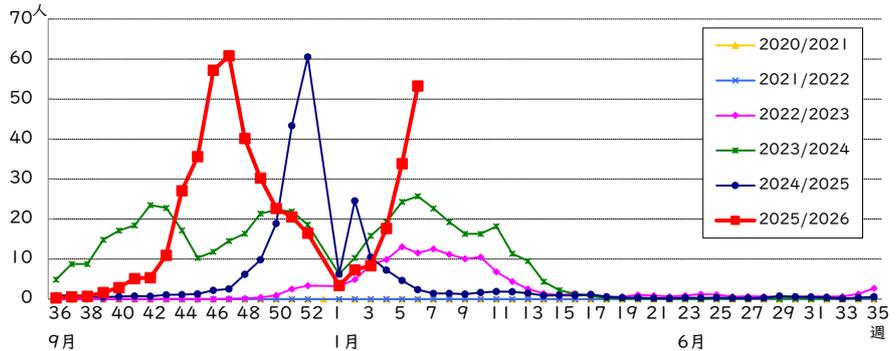
**咳エチケットや正しい手洗い<sup>※2</sup>等でインフルエンザを予防しましょう。**

※1 定点あたりの患者報告数とは、1週間に1回、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内90か所)から報告された患者数の平均値です。

※2 [令和7年度 今冬の急性呼吸器感染症\(ARI\)総合対策](#) | 厚生労働省に、インフルエンザの予防方法等について掲載されています。

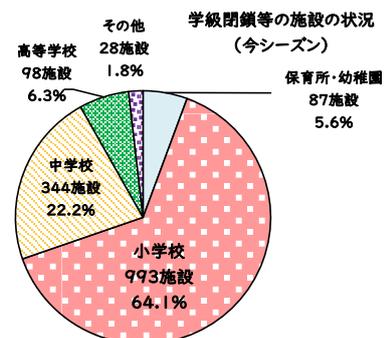
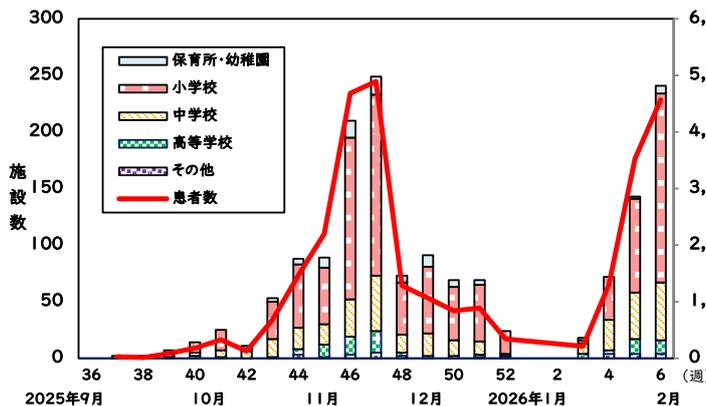
### 【市内流行状況】

市全体の定点あたりの患者報告数は、2025年10月下旬に流行注意報、11月上旬に流行警報の発令基準を超えました。その後も増加が続き、11月中旬に60.78でピークを迎えました。その後は減少傾向でしたが、年明け以降再び増加に転じ、第4週は17.67で流行注意報、第5週は33.87で流行警報の基準を再び超えました。第6週は更に増加し、53.30となっています。



### 【市内学級閉鎖等状況】

第6週は241施設(保育所・幼稚園7、小学校167、中学校51、高等学校12、その他4)から、4,567人の患者数の報告がありました。なお、今シーズンの累計は1,550施設、延べ28,725人の患者数が報告され、施設毎の割合は、保育所・幼稚園5.6%、小学校64.1%、中学校22.2%、高等学校6.3%、その他1.8%です。



【お問い合わせ先】

横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(370)9237

横浜市医療局健康安全課

TEL 045(671)2463

※ 詳細は明日発行の臨時情報をご覧ください